

## 宇都宮大学農学部附属演習林報告執筆基準

制 定	昭和52年 1月19日
一部改正	平成元年 2月23日
一部改正	平成11年 3月17日
一部改正	平成22年10月 8日
一部改正	平成26年10月 8日
一部改正	平成28年 2月12日
一部改正	令和 3年 3月 2日

### 1. 原稿の形式は次のとおりとする。

論文：1) 表題, 2) 要旨 (和文及び欧文), 3) 本文, 4) 引用文献, 5) 図 (写真を含む), 表  
資料：1) 表題, 2) 本文, 3) 引用文献, 4) 図 (写真を含む), 表

表題には, 和文原稿の場合, ①和文表題 ②欧文表題 ③著者名 ④著者のローマ字書きフルネーム及び⑤欄外脚注を記載する。欧文原稿の場合は, ②, ①, ④, ③, ⑤の順に記し, いずれの場合もページを改めて本文を書くこと。

原稿には, 次の各項を記載した別表を添えること。

①著者名 ②表題 ③原稿の種類 ④原稿の枚数 ⑤図 (写真を含む), 表, のそれぞれの数量 ⑥連絡責任者 ⑦その他

### 2. 原稿は新仮名遣いにより, 学術用語以外は当用漢字を用いる。句読点には, 「,」および「.」を用いる。

3. 和文原稿はマイクロソフト社のワード等のソフトウェアを用いて作成し, A4判の白紙に上下左右3 cm程度の余白をとり, おおよそ横40字×縦30行に整える。欧文原稿はワードプロセッサ等を用いて作成し, A4判の白紙に上下左右3 cm程度の余白をとり, ダブルスペースで作成する。欧文は原則として英文とする。和文, 欧文の場合ともに, ソフトウェアの機能を用いて左側余白に行番号, 下側余白にページ番号を記載する。

4. 要旨 (Abstract) は, 原則として和文約500字以内, 欧文約300語以内とする。要旨の最後に, 論文内容を的確に示すキーワード (日本語及び欧語) を5語以内記載する。

5. 継続研究の報文表題は, 主題の1報, 2報などの表示は (I), (II) とし, 副題については (1), (2) とする。

6. 動物, 植物の和名はカタカナで書き, 学名は属, 種, 変種, 品種部分はイタリック体で書く。

7. 数字はアラビア数字を用い, 百万, 千の桁にカンマをつける。二, 三などの漢数字の使用は三角形, 二重結合, 二三の例, などに限る。

8. 単位はSI単位系を使用し, 必要であればc.g.s単位系を括弧書きで併記してもよい。なお, 単位の表記は慣用となっている略字によって記載し, ピリオドはつけない。

9. 外国の人名, 地名及び欧語の用語などは原語のままとするが, 慣用的に広く用いられる場合はカタカナを使用してもよい。例:アメリカ, ボアソン比

10. 図 (写真を含む), 表の表題には, 和文原稿の場合は図-1, 表-1, 欧文 (英語) 原稿の場合はTable 1, Figure 1のようにそれぞれ通し番号をつける。また, 和文原稿の場合は欧文もあわせて作成する。

11. 図 (写真を含む), 表を入れたいおおよその位置を, 本文原稿該当箇所の欄外右に朱記して指定する。本文中には空白を設けない。

12. 図は印刷時のカラム幅 (半カラム8 cm, 全カラム17 cm) を考慮して作成する。図として写真を使用する場合は, 鮮明なものを用いる。図の表題はゴシック体で図の下方に記載する。

13. 表は原則として1ページに印刷できる限度以下とする。表の縦けいは原則として省き、横けいもできる限り省略する。表題はゴシック体を用いて、表の上方に、注は表の下方に記載する。
14. 引用文献は著者名のアルファベット順に配列する。共著者は全員記載すること。同一著者の文献が複数ある場合には発行年順とする。本文中での引用は、井上ら（1998）あるいは（井上ら1998；飯塚・大島2017；Nezu et al. 2021；Ohkubo and Aizawa 2021）のように、人名と年を用いて引用する。著者と発行年が同一の文献は、年の後にa, bなどのアルファベットを付して区別すること。オンライン資料については、発行年（または更新年）が表示されている場合はその年を、いない場合は著者が参照した年とする。
15. 引用文献の記載方法は下記の例に従う。学術雑誌はなるべく略名を用いないようにする。

（雑誌の例）

- 井上源基（1998）タワーヤード集材における適正索張り線密度の検討。森林利用学会誌13：99–110。
- 佐原奈々美，中村俊彦，逢沢峰昭，大久保達弘（2018）日本中部亜高山帯林の伐採後に成立した落葉広葉樹優占林の実生の発生・定着におけるコケ群落の役割。日本森林学会誌 100：102–109。
- Yoshizawa N, Idei T (1989) Comparative histochemistry of wood cell wall degradation by white-rot fungi. *Bulletin of the Utsunomiya University Forests* 25: 23–38.
- Slifka MK, Whitton JL (2009) Clinical implications of dysregulated cytokine production. *Journal of Molecular Medicine*. doi:10.1007/s001090000086

（書籍の例）

- 梅田三樹男，辻 隆道，井上公基（1982）標準功程表と立木評価。日本林業調査会，東京，79–81。
- Savidge RA (1964) Chapter 1 Tree growth and wood quality. In: Barnett JR and Jeronimidis G (eds) *Wood Quality and Its Biological Basis*. Blackwell Publishing, Oxford, 1–29.

（オンライン資料の例）

- 林野庁（2016）スギ・ヒノキ林に関するデータ。 [http://www.rinya.maff.go.jp/j/sin\\_riyou/kafun/data.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/kafun/data.html)（2016年2月11日アクセス）
- FAO (2014a) *Global forest resources assessment 2015, country report, Mongolia*. <http://www.fao.org/3/a-az278e.pdf> (Accessed 27 Aug 2016)

16. 本誌（宇都宮大学農学部演習林報告）に掲載された論文，資料等の著作権は，宇都宮大学農学部附属演習林報告編集委員会に帰属する。